

平成24年度事業報告（要約版）

概況

平成24年度は公社の事務所移転からスタートしました。これまでの3年間は角田市役所庁舎の一部を借用しておりましたが、平成24年4月から水道事業所が置かれていた庁舎西側の建物に移り事業活動を行っております。

本年度は、とりわけ、「公益社団法人」への移行認定を目指して準備・手続きを進めてまいりました。公益法人制度改革により平成25年11月までに公益法人もしくは一般法人への移行手続きを完了しなければならないことから、移行認定を受けるため、新たな事業体制を模索しながらの定款案作成、並行して申請書類の整備・作成に取り組みました。定款については、理事会で議論を重ね、11月2日の臨時総会で承認をいただきました。これを受け、11月16日、宮城県に移行認定の申請を行い、3月21日付けで宮城県から移行認定を受けました。平成25年4月1日には公益社団法人としての設立登記を完了し、新たな組織として事業活動を開始することとなりました。

事業活動については、諸課題があるなか、「情報提供活動の強化」、「あぶくま農学校の再構築」、「販売活動に関する調査・研究」に重点を絞り、取り組みました。

情報提供活動では、日常の相談活動を通しての情報提供はもとより、ここ数年発行できなかった「公社だより」の発行を再開するとともにホームページの逐次更新を行い、情報提供に努めました。

あぶくま農学校の再構築については、具体的な進展はありませんでしたが、小松先生の指導を受けながら、ここ数年開催していない「風の塾」の再開もしくは見直しについて検討してきました。また、こうした課題を議論する「農業戦略会議」も委員の任期切れのまま暫く開催されていなかったことから、前任委員に参集いただき会議を開きました。委員からは農業戦略会議を今後は定期的に開催すべきであるとの意見を頂いております。

販売活動の関連では、実践塾を土台に目黒区のイベントへ参加し、福島原発事故による風評を取り除くべく消費者との交流を深めてまいりました。そのほか、初めての試みとして、10月に仙台市のクリスロード商店街にある「食材王国みやぎ地産地消市場」に角田市が出展し、角田の農畜産物・加工品などを直売しました。公社では、あぶくま農学校ブランドの新米を販売し、消費者の購買動向などを調査しながら角田の米をPRしました。

特別会員事業では、本年度108口の実績にとどまりましたが、このほかに東京目黒区の不動産会社より、特別会員として216口の申し込みを頂き、対応いたしました。これは、特別会員事業の地道な活動が芽を出した結果であり、良いものを継続してお送りすることが大切であることを再認識したところです。

以上、平成24年度の主な事業活動の概要についてご報告いたしました。このほか、事業計画に基づき実施いたしました各事業の内容については以下のとおりご報告いたします。

1. 地域農業戦略の調査・研究に関する事業

自立した農業経営体の育成、あぶくま農学校ブランドの展開に対し支援した。

■自立した農業経営体の育成とあぶくま農学校ブランドづくりの展開

自立した農業経営者の育成には、マーケティングの考えを取り込み、顧客志向の農業経営を展開することが必要であるとの視点から事業展開を行った。

■農業戦略会議の開催（平成 24 年 12 月 17 日）

公社の運営と地域農業のあり方について検討・調整することを目的として設置されている農業戦略会議を開催した。

2. シンクタンク機能に関する事業

インターネット等を用いて、公社の運営状況や、角田の農畜産物の情報を発信した。また、農業全般にわたる情報を収集し、地域農業振興に活用するため、農業者へ提供した。

■ホームページの更新

角田農業の情報発信のため、掲載内容を読みやすいよう更新作業を行い、公社会員、閲覧消費者等に広くアピールした。（平成 24 年 6 月～25 年 3 月のアクセス数 4960 件、1 日平均 16.5 件）

■農業振興公社だよりの発行

24 年度は 3 回発行し、公社事業の実施状況やお知らせ等の情報提供に努めた。

①第 23 号（6 月 1 日発行） ②第 24 号（10 月 1 日発行） ③第 25 号（1 月 1 日発行）

3. 農地利用集積円滑化事業

担い手農家の規模拡大、農地の集団化等を円滑に進めるため、農地集積促進員（15 名）による利用調整や農地システムを活用した推進を図った。

■農地集積促進員の活動

・農地利用調整のための活動延べ日数：204 日

■農地利用集積円滑化事業

【農用地の賃貸借事業の平成 24 年度計画と実績】

| 区 分 | 借り入れ | | 貸し付け | |
|-----|------|---------|------|---------|
| | 件数 | 面積 (ha) | 件数 | 面積 (ha) |
| 計 画 | 155 | 100 | 110 | 100 |
| 実 績 | 187 | 95 | 81 | 95 |

【参考】公社の仲介契約面積（24 年度末現在）

| 合 計 | うち田 | うち畑 |
|---------|-------|------|
| 1,032ha | 976ha | 56ha |

4. 農作業受委託推進事業

担い手農家の規模拡大につながる作業受委託を組織的に促進するため、農業機械銀行と連携を取りながら作業受委託の斡旋を行った。

【農作業受委託事業計画と実績】

(単位：ha)

| 区分 | 耕起・代かき | 田植え | 収穫 | 乾燥・調整 | 計 |
|----|--------|-------|-------|----------------|--------|
| 計画 | 5 | 11 | 50 | 59 | 125 |
| 実績 | 4.66 | 11.86 | 41.94 | 45.5 (6,827 袋) | 103.96 |

※農業機械銀行の作業料精算取り扱い分

※作業料金：15,564 千円（前年度 16,928 千円 対前年比 91.9%）

【参考：認定農業者等への利用集積状況】

(単位：ha)

| 区分 | 人数 | 自作水田 | 小作水田 | 水稻 作業受託 | 麦 作業受託 | 大豆 作業受託 | 飼料作物 作業受託 | 畑 | 計 |
|-------|-----|-------|-------|------------|-----------|------------|--------------|-------|--------|
| 認定農業者 | 157 | 325.6 | 811.2 | 95.8 | 59.7 | 207.4 | 26.8 | 196.6 | 1723.1 |
| 育成農業者 | 85 | 135.5 | 77.8 | 12.2 | — | 16.3 | 9.3 | 72.0 | 323.1 |
| 計 | 242 | 461.1 | 889.0 | 108.0 | 59.7 | 223.7 | 36.1 | 268.6 | 2046.2 |

【参考：角田市基本構想の対象面積に対する集積面積の推移】

(単位：ha)

| 年度 | 対象面積 | 目標面積 | 集積面積 | 割合 | 備考 |
|---------|-------|-------|---------|-------|----|
| 平成 24 年 | 3,398 | 2,140 | 2,046.2 | 60.2% | |

注) 角田市の集積目標面積割合は 63%

5. 農業経営改善支援事業

角田市基本構想に掲げる農業経営体の育成を図るため、農業経営の相談活動、経営改善計画書の作成支援、認定農業者の経営改善を支援した。

また、簿記記帳の推進を図り、青色申告への移行を推進した。

■平成 24 年度活動実績

| 区分 | 実績 | | | |
|--------------|------|-----------------|----------|------------------|
| | 回数等 | 開催年月日 | 参加数 | 内容 |
| 経営改善計画認定制度説明 | 戸別訪問 | 24.4.1～25.3.31 | 26 人 | 認定農業者掘起し・経営相談等 |
| パソコン農業簿記定例会 | 37 回 | 24.7.10～25.2.26 | 延べ 218 人 | アグリパソコン研究会(56 人) |
| 新規就農者支援活動 | 0 回 | | | |

■経営改善相談

■アグリパソコン研究会の実績

■農業経営改善推進会議の開催

■認定農業者の認定状況

- ・平成 23 年度末の認定農業者数：174 人
- ・平成 24 年度末の認定農業者数：157 人（個人 150 人(男 141 人、女 9 人) 法人 7)

6. 新規就農者支援事業

あぶくま農学校「土の塾」の開催など、新規就農に係る相談・支援活動を行った。

■土の塾

農業をやりたい、農業に興味があるという人のための研修・実践塾として「土の塾」を実施した。

- ・参加塾生：6人（うち県外4人）
- ・期間：8月23日～8月26日 3泊4日

■就農相談活動

新規就農希望者の就農相談活動を行った。

7. 農業人材育成に関する事業

経営能力と経営者意識の向上を図るため、あぶくま農学校「農業経営実践塾」や株式会社パソナが主催する「農業者雇用支援講習」などを開催した。

■あぶくま農学校運営委員会の開催

■農業経営実践塾（自立した農業経営体の育成）

■農業者雇用支援講習の開催

株式会社パソナが主催する「農業者雇用支援講習」（厚生労働省雇用支援事業）を後援し企画に参画するとともに、公社会員を中心とした農業経営者、関係機関に参加を促進した。

8. 農産物の販売戦略の調査・研究に関する事業

「売る農業」への転換を図り、あぶくま農学校ブランドの確立と消費者からの信頼を得るため、あぶくま農学校ブランド農産物・加工品の販売やPR、地域のイメージアップを図った。

■角田農業のサポーター（特別会員）の加入促進

24年度も加入コースを2コース設定して募集を行った。

特別会員数 108口（前年度 102口）（年会費 10,000円）

※また、目黒区の不動産会社様より下記申込があり、24年度から25年度にかけて発送することとした。

特別会員数 216口

■あぶくま農学校「出前塾」

農産物の販売及び都市消費者との交流を通じて東京都目黒区におけるあぶくま農学校及び角田市のPRを図ることにより今後の販売実践活動の下地作りを目的としたイベント販売を行った。

- ・「第49回目黒区商工まつり（目黒リバーサイドフェスティバル）」
- ・「第41回目黒区消費生活展」

■「食材王国みやぎ地産地消市場」への参画

地元産の農畜産物・加工品を直売する「食材王国みやぎ地産地消市場」（仙台クリスロード商店街）に角田市が出展することに伴い、公社も参画し、あぶくま農学校ブランドの新米等の試食販売、“角田の米”のPRを行った。

■自主プロジェクトに対する支援

目黒区自由が丘住区で開催された「自由が丘住区まつり」で角田の農産物（みそ・梅干し）を宣伝・販売する実践活動に対し支援した。

9. 都市消費者等交流事業

食農教育の一環としての農業体験交流や農業・農村に触れる機会の少ない都市消費者との交流（今年度は、小学校の体験交流は地元の小学生のみとなった）を通じて、生産者と消費者のお互いの声を活かしながら交流を深め、農業・農村への理解と消費者意識の向上を図った。

■北郷小学校農業体験学習

■西根小学校農業体験学習

■枝野小学校農業体験学習

■あぶくま農学校「出前塾」の開催（前述8の事業を参照）

■JAみやぎ仙南角田地区青年部が目黒区内の小学校に出向き、稲作指導を行ったことに対する支援を行った。

JAみやぎ仙南角田地区青年部が目黒区内の小学校に出向き、稲作指導を行ったことに対する支援を行った。

■目黒区・角田市みどりの交流事業

目黒区が区民に配布する苗木（ツバキほか）1,100本を、9月から12月にかけて供給した。苗木は角田市地域振興公社で育成した。

■東京工業大学留学生角田農村体験交流事業

目黒区内にある東京工業大学の留学生に日本の農村での滞在と交流を経験させたい旨の同大学の要望により、農家でのホームステイ並びに交流、及び被災地の見学等を行った。

10. 事務局を担う組織・団体等

下記団体・組織の事務局を担当し、事務を遂行した。また、下記組織の構成員として参画し、提案や提言を行った。

■事務局のある団体・組織

角田市アグリパソコン研究会、角田市農業経営者会議、角田市農業機械銀行、
角田市地酒用地場産米消費拡大推進協議会（おらほの美酒を育てる会）、
地区水田受託者連絡会、角田地域担い手育成総合支援協議会

■構成員となっている組織

角田市農業振興協議会、角田市水田農業推進協議会、角田市耕作放棄地対策協議会

11. その他

視察等の対応を行った。

8月31日 登米市農業委員会

2月25日 亘理町農業委員会